

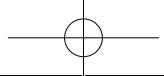
AUTO E MOTO D'EPOCA

クラシックカーショーでも跳ね馬のヘリテイジが皆を魅了

三大クラシックカー・ショーのひとつ、オートデポカ・ポローニャには地元、モーターヴァレーの各ブランドを中心として多彩な展示が行われた。メインテーマである「F1創設75周年の軌跡」を一目見ようと多くのファンが詰め掛けた。

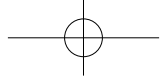
Text : Shini-ichi Ekko(越湖 信一) Photo : Auto e Moto d'Epoca/Shini-ichi Ekko(越湖 信一)





2007 F2007 ドイツ国立自動車博物館（ロー・コレクション）所蔵のキミ・ライコネンが駆った個体。フェラーリがドライバーズチャンピオンを獲得した最後のマシンであり、決定的な勝利を収めたブラジルGPで使用されたシャシー番号262。





1952 500 F2

フェラーリ史上最も勝利を収めたマシンの一つ。チューブラーシャーシ、デ・ディオン式リアアクスル、デュアルイグニッションエンジンを搭載。アルベルト・アスカリが駆り、1952年と1953年の世界選手権を制した。展示車両はエンツォ・フェラーリ本人より寄贈されたものであるという。



フェラーリのヒストリックF1を堪能する

“内燃機関の誕生から最新の世界チャンピオン、フェラーリF1とホンダの伝説的な二輪ヘリテージまで”という魅力的なテーマで「オート・エ・モト・デポカ2025」が開催された。この大規模な二輪・四輪のクラシックカーイベントは10月23日から26日にかけて、ポローニャ展示場を占有して多くのエントラントを集めたのだ。

このF1創設75周年の軌跡展示は、まさにマラネッロの位置するモーターヴァレーならではの見どころであり、多くの個体を私たちは楽しむことができた。500 F2、156 F1、312T4、F2007といった跳ね馬たちをはじめとして、当地ならではのバリエーションが集結した。

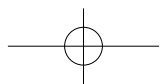
フィル・ヒル、リカルド・パトラーゼ、クレイ・レガッツォーニ、ジル・ヴィルヌーヴなど、時代を超えたレジェンドたちが駆ったシングルシーターやモデルの展示で、スクーデリア

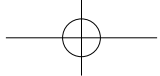


の歴史を楽しむことができた。

2023年に、ここポローニャへと会場を移転して今回が3回目となるが、それまではパドヴァにおいて開催され、“パドヴァ・ショー”として人気を博した。パドヴァ時代から通算すると今年で42回目となる歴史的なクラシックカーイベントなのだ。パリのレトロモビル、エッセンのテクノクラシケと並んでヨーロッパの三大クラシックカーショーと称されるが、ここポローニャへ移転したオート・エ・モト・デポカの人気は急上昇している。2025年は、14のホールと4つのテーマルートに広がる235,000平方メートルの会場に5000台以上のクラシックカーがディスプレイされた。

重要なのは、“草の根”的な活動が充実し





1963 FERRARI 156 F1

1961年レギュレーションに基づき設計され、190馬力を超える出力を発揮する120°V型6気筒エンジンを後部に搭載。ミッドマウント・エンジンレイアウトが採用され、サーキットでは多くの実績を残した。

1979 312T4

故マウロ・フォルギエリ快心の一作。312T3をベースに、空気に大幅な改良が加えられた。180°V型12気筒に横置きギアボックスというユニークなレイアウトが採用された。ヴィルヌーヴやシェクターらの活躍がハイライトであった。

AUTO E MOTO D'EPOCA

ている点だ。各ミュージアムやメーカーによる展示やプレゼンテーションはもちろん大きく行われるが、主役はACIやASIといったクラシックカー団体、そしてオーナーズクラブだ。アマチュア達が手弁当で参加するという昔ながらの楽しみ方が今も健在であるのはうれしい。パビリオンの外には、安価に自分のクルマを展示してFor Saleとする古き良きスワップミートの色合いも残っている。

跳ね馬に関してはネオ・クラシックの展示・販売も多くみられた。特に走行距離の短い個体はすぐに商談がまとまり、マニュアルシフトへの人気がとても高い。ヨーロッパでメディアム・レベルのクラシックの相場下落がこのところ語られているが、このようなネ

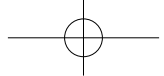
オ・クラシックについてのマーケットは思いのほか元気であり、当地の有力販売店は大規模な展示を行っているのが印象的であった。

ヴィンテージ・パーツの販売スタンドも数



えきれないほど並ぶ。ここに出展する売り手も相当なマニアだから話は早い。このリプロダクションにはこんな問題があるだとか、ここに行けばあるかも、と他店を紹介してくれたり……。やはりメールでのやり取りとは違った濃いコミュニケーションがここでは可能なのだ。筆者は書籍やカタログ、特に取り扱い説明書はここで探すことにしている。古いものはコンディションの確認も重要だし、店主がバージョン違いなど、詳しくアドバイスしてくれるからだ。

さて、筆者の長年の親友であるアドルフォ・オルシJrが刊行している「クラシックカー・オークション・イヤーズブック」30号発売記念のカンファレンスも開催された。彼はマセ



AUTO E MOTO D'EPOCA



テスタロッサ系を大量展示したモデナの大手クラシックカー・ディーラーAuto Luceのスタンドは大賑わい。



オートモビルクラブイタリア (ACI) のスタンドでも今回の主催者展示と連動したF1のディスプレイが。



スペシャール系に高い注目が集まるのは万国共通。比較的最近のモデルの展示も多い。



スタンドの小間あたりのスペースが広大であり、恐ろしい台数がぎっしりと詰まっている。



ニューモデルの展示も限られた台数であるが行われる。もちろんレアなモデルに限るが。



自動車に関連する小物や、パーツ類のスタンドは毎回出展の顔なじみが多い。特にイタリアのマイナーブランドのパーツをさがすなら、ポローニャー択。

ラティのオーナーであったオルシ家の末裔であり、世界中のオークション落札記録をまとめた書籍の発刊に早くから取り組んだクラシックカー界の重鎮でもある。今から30年前はクラシックカー・オークションなど数少なかったし、クラシックカー・マーケットがここまで大きくなるとは誰も思っていなかった。

そういう意味で、彼には先見の明があったと言える。

会期中はヨーロッパ以外からも多くのクラシックカーファンが訪れ、終日、会場は満員であった。3大クラシックカーショーの中でも、ここポローニャのプライオリティは極めて高いと言えよう。

オフィシャルサイト

<https://autoemotodepoca.com/>

*イベント期間中、ポローニャ市街のホテルは満室となる。近隣のモデナですらホテルは混み合うので早めに抑えたい。イベント初日は入場料が2倍となるが、比較的ゆったりと見学できる。一方、土曜日終日、日曜の午後はたいへん込み合う。ポローニャ中央駅からはクルマで10分（空いていれば）ほど。タクシー、バスなどアクセスは極めて良好。